

女藏巻年業草



式

女織蚕手業草

蚕手業草  
ひるは寝て  
をと眠も  
よどむかひふ  
まごて体の付へ  
業とゆふう  
小ちか減る



奇齋筆



女織玉蚕手葉草

三

哥麿筆

クハコ

クハコ

蚕三度の  
休り後葉を  
うきの湯

ひきかわ大きにすり  
ほきくゆううすを  
かの竹茹ア乃  
をのよほほ葉の  
葉と刻く御衣の  
ゆくか



女織玉雲年業草  
四

大眠く暑

玉雲の休

にこの休

時をうひ  
きう用ひと  
仲めり



女織蚕牛業草

大眠起ウツクシタて  
後葉ハタハタの葉ハタハタを  
剥ハラハラす

又

大眠起ウツクシタて  
後葉ハタハタの葉ハタハタを  
剥ハラハラす



哥  
麻  
革



着物を写

もと

着物

度々の如く  
桃の葉の如く  
ひきの如く

の如く

の如く  
の如く  
の如く  
の如く

哥磨筆



云墨

七

旅物

うちお時計の  
花とよきとよきんで

小えくう約  
屋ハ

ゆる  
小えくう  
屋ハ

ゆる  
小えくう  
屋ハ

ゆる  
小えくう  
屋ハ

ゆる  
小えくう  
屋ハ

哥麿草



女鐵玉雲牛紫草

奇雲筆

蚕  
吐絲  
蝶にありて  
飛鳴

うしと  
蚕城と  
うさり

八



爾之急不  
少私營

生前と塔の  
後華の

大さな土臺の  
内底土行の



女藏雲牛業草

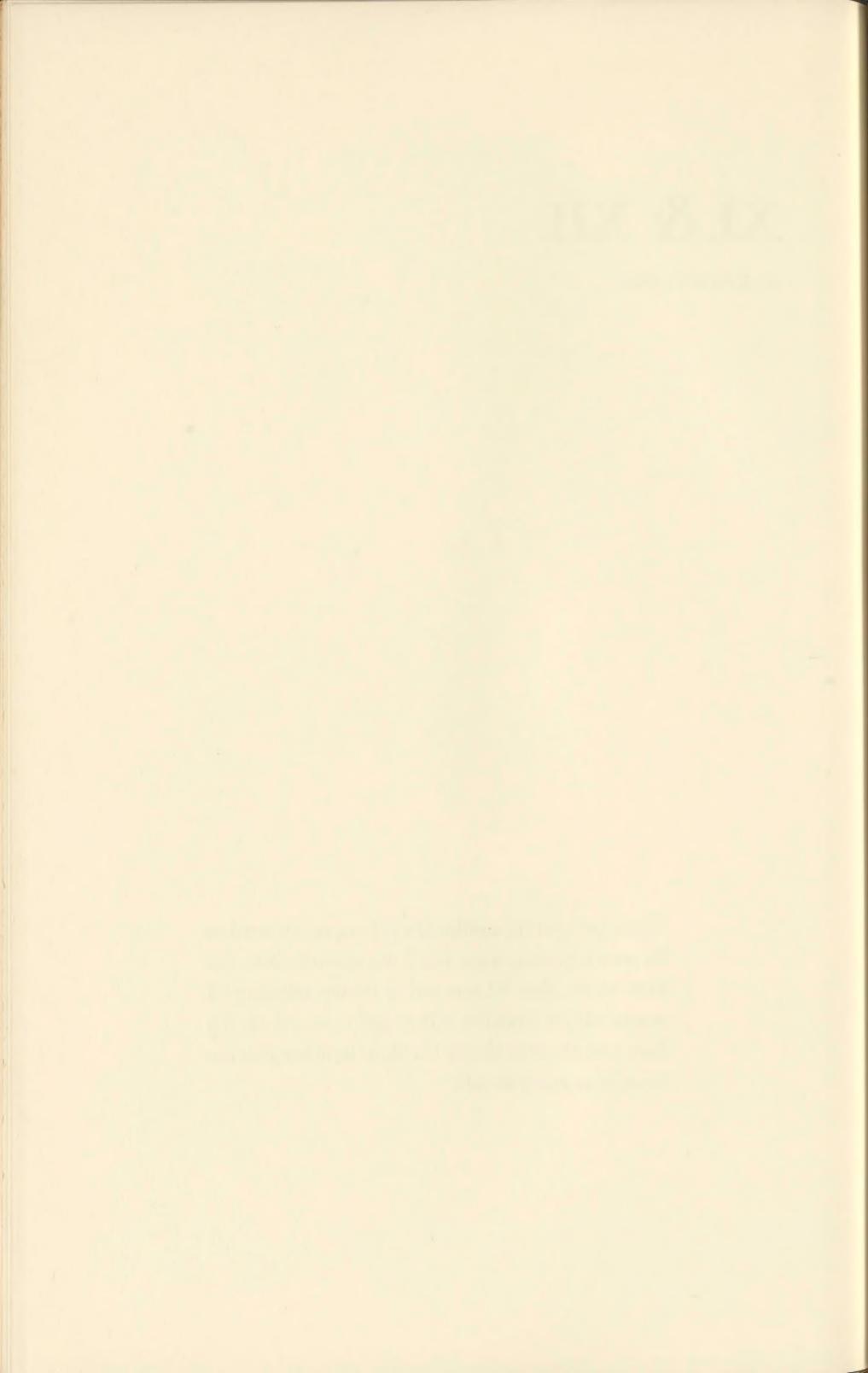
十

奇壁筆

いと  
涼錦を  
扱ひる事

まほり  
錦より涼を  
ねうへを白く  
ひそよれと





雲乃神を參る  
軒遇宍御埴山  
娘小遙と  
稚彦雲を  
産世神の  
紀年と  
奈やう  
せり故小  
日本と  
稚彦美  
と  
象る兒  
もみう  
人宣三十  
雄異天宣  
神后  
娘云一  
唐云すて  
黄帝娘后  
西漢氏と  
也

哥麿草



女織  
ウヂコテ  
蚕手業草  
コシキ

十二絶



哥麿筆

